

新型コロナウイルスはまだまだ終息しない 私たちにとってより良い予防法は……

●酸素不足がすべての病気の原因

新型コロナウイルスの蔓延で今年前半は日本のみならず、世界中がその対処に追われまされた。日本ではやっと自粛生活から解放され、いろいろな所に出かけられるようになりましたが、今後第2波、第3波に襲われると予測されています。油断せず、ウイズコロナ（コロナと共に）の生活をしてゆかなければなりません。

野口英世博士は「すべての病気の原因は酸素不足にある」と言っています。その理由は私たちの身体の60兆個の細胞を動かすにはエネルギーが必要で、そのエネルギーを作り出すのに酸素が不可欠だからです。栄養分を酸素で変換してできたエネルギーが私たちの身体を動かすのです。心臓や脳の細胞はもちろん、新型コロナウイルスと戦う免疫細胞もエネルギーによって活性化されます。

新型コロナウイルス症状はほとんどが肺炎です。多くの人が重篤な肺炎に陥って亡くなられました。肺炎とは肺に炎症が起こり、この炎症部分からは酸素が身体に取り込めにくくと、多くの人の手が肌荒れでポロポロになつていそうです。私たちも最近には家に帰れば手洗いをし、そのあと消毒をするという習慣になつていと思ひます。アルコール消毒はどうしても肌を荒れさせてしまひます。それにアルコールの消毒効果は瞬間的なものです。理由は、細菌だけでなく肌の油分や水分を取り込み揮発して無くす作用があるからです。

アルコール消毒液が足りないというので次亜塩素酸水を使う人も多いのですが、そもそも手指を消毒するために開発されたものではなく、刺激が強く、光にあけると効果がなくなります。次亜塩素酸ナトリウムは殺菌作用が高いのですが、いわゆる漂白剤ですから、どんなに薄めても手指に使うことは危険が伴います。次亜塩素酸ナトリウムを空気清浄機の中に入れてある家庭で、部屋にかけてあった衣類が白っぽくなつてしまつたということもよく耳にしますので、危険です。

では使つても安心、肌に刺激がない消毒液は無いのか……。これは13年前に院内感染症対策で「手洗いの励行」が求められた状況とよく似ています。そのころ、病院内で頻繁に使つていた消毒薬で手がボロボロになり「手洗いの励行」は続けられなくなりました。そこで古典的なものではなく継続して使える

なるために息苦しくなる病気です。

新型コロナウイルスの重篤患者は酸素吸入器や人工心肺装置「ECMO（エクモ）」などを使つて身体に酸素を入れて命を救うという治療がなされているのをご存じだと思ひます。酸素は鼻や口から入り、気管支を通つて肺に入り、肺胞から身体に取り込むというのが常識でしたが、新たに酸素が溶け込んだ水（酸素補給水「W O X水」）を飲み、酸素を口腔粘膜や消化器官から体内に供給する方法があります。肺からではなく消化器官などから体内に取り込むことによつて、酸素を細胞に届けることができます。

今回の新型コロナウイルスのPCR検査で陽性になつた人たちは隔離され、いつ肺炎を発症して息苦しく、酸素吸入が必要な状態になるのかを気にして生活されていられると思ひます。そういう時は酸素吸入器が必要になる前に酸素補給水を飲んで消化器官から十分に酸素補給しておくことをお勧めします。新型コロナウイルスに負けないエネルギーを作るために酸素補給水を上手に活用

消毒薬を探そうということになり研究が始まつたのです。

「抗菌効果や抗ウイルス効果はもちろん、実際に使いやすい習慣として定着するような消毒薬を確立したい！」前記したようにアルコールは刺激が強いし、次亜塩素酸はもっとダメ。様々な材料を試した結果浮かび上がつてきたのが刺激の少ない安全性の高い銀でした。

ただ、銀（銀コロイドやナノ銀）には変色と抗ウイルス効果が低いという欠点がありました。様々な取り組みの中で安定して変色せず、効果を10倍以上強化することに成功したのが

してほしいと思ひます。

このエネルギーで免疫細胞が活性化すれば、体内に入つてきた新型コロナウイルスを肺炎になる前に抑えることができます。

●新型コロナウイルスの感染予防に安全な消毒液

前回の記事で不織布のマスクは洗つて使えろということを書きました。「不織布のマスクでも洗つていいの？」というお問い合わせが相次ぎ、多くの反響がありました。不織布のマスクは使い捨てという意識がりましたが、布に比べれば弱いものの数回洗つても問題ありません。手作りマスクも流行し、最近では冷感や呼吸しやすい熱中症対策用などおしゃれなマスクが登場しています。これらは洗濯して続けて使用しますが、もし安全な消毒薬があれば、洗つたマスクの表と裏にシユシユと吹きかけることで抗菌・抗ウイルス機能が高められ長持ちできます。

その消毒薬ですが、多くはアルコールが使われています。しかし、医療従事者の皆さんに聞くと、高い効果が認められています。

HTシルバーは化粧品防腐剤（3ppm）として、酸素補給水に配合した化粧品が開発され、酸素ミストローション（W O X水）として3年前から発売されていますが、今回の新型コロナウイルスの蔓延で急遽消毒液として製品開発がなされました。成分は酸素と水、それにHTシルバー（10ppm）だけで携行用のカラダに優しい「Agウォックス10」とその廉価版の水とHTシルバー（10ppm）の「HTシルバー10」が誕生したのであります。酸素補給水と併せて新型コロナウイルス対策にお勧めします。

「エール」編集長 植松紀子

Agウォックス10の特長 (消毒液アルコールとの比較)

| 製品 | 製品分類 | 抗ウイルス・抗菌効果 | 持続力 | 安全性 |
|-----------------------|--------------------|---------------------------------------|-----|-----|
| Agウォックス10 | 雑品 | 強い 使用頻度により更に増強 (HTシルバー10ppmによる) | 長い | 高い |
| アルコール (76.9~81.4%) | 外皮消毒剤 (指定医薬部外品) | 強い | 一瞬 | 低い |

HTシルバーとインフルエンザウイルス

HTシルバー
ウイルス

- HTシルバー（画像の黒い部分）がインフルエンザウイルスのスパイクにアタック。
- HTシルバー10ppmで高病原性鳥インフルエンザのウイルスが1/100に減少。
(福岡県立、NPO法人QOLサポート研究会)

HTシルバーによる抗鳥インフルエンザウイルス効果

